

オープン
カレッジ

今年も厳しい暑さが日本列島を包んでいる。私は、2010年ごろまでは自宅に冷房を設置しておらず、夏は大いに汗をかいていたが、暑さに苦しむ期間は、梅雨明け以降の10日から2週間程度であった。8月のお盆を迎える頃には、随分と過ごしやすくなり、「今年も無事に夏を乗り越えた」と安堵(あんど)していたものである。

私の研究における専門

夏の水不足

ろう。今回は、この水不足の仕組みを、自然の要因である気候変動から解説したい。

石油、石炭などの化石燃料に関わる産業を支持基盤とする、米国のトランプ政権は、やや強引に否定しているが、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」は、人間活動により放出された温室効果ガス類によって、地球の気候が変化してきていることを繰り返し指摘している。例えば愛知県では、都市部、郊外を問わず、1980年代から2020年代にかけて、年平均気温は1・5度以上の上昇

をされている(身近な水の環境科学第2版、朝倉書店)。ここで、私たちが暮らす中部地方の気象とその季節変化をまとめてみる。冬は日本海を渡ってきた湿った空気が、山岳地帯にぶつかり、日本海側に多量の降雪をもたらす。太平洋側には乾いた空気が流れ込む。夏はこの逆で、太平洋から押し寄せる湿った空気が山岳

気候変動の

影響を思う

は、陸地にある水、陸水の環境問題である。今年の話題は、何といても米どころ、日本海側の水不足であ



山女学園大学
教育学部准教授
野崎 健太郎

のざき・けんたろう 陸水学、科学教育。京都大学大学院理学研究科植物学専攻、博士後期課程修了。博士(理学)。

突然の大雪による交通障害は毎年のように発生しているが、積雪が長期間残存し、人の生活がそれに対応しているという話は聞かなくな

った。豊田工業高等専門学校教授の松本嘉孝博士と、名古屋市と高山市における降雪量の長期変化をまとめてみたことがある。その結果、日本海側に近い高山では、2000年代以降、降雪量が顕著に低下してきていることが明らかになった(身近な水の環境科学第2版、朝倉書店)。

気候変動の解決には十年単位の時間が必要となる。水利用の大きな転換期に入ったと考えている。